

日本足の外科学会 足関節・後足部判定基準 (JSSF ankle/hindfoot scale)

疼痛 (40点) ¹

/ 40

	自発痛・運動時痛	日常生活時	スポーツ・重労働時	(参考: 疼痛対策の有無)	
なし	全くなし	なし	なし	(なし)	40
軽度	時々運動時痛あり	なし	あり	(なし)	30
中等度	常に運動時痛あり	全ての動作時にあり	かなりあり	(時々必要)	20
高度	常に自発痛あり	かろうじて歩行できる	(痛みで)できない	(常に必要)	0

機能 (50点)

/ 50

活動の制限					
	すべての活動に支障なし				10
	日常生活には支障はないが、レクリエーション程度の活動に支障あり				7
	日常生活、レクリエーションに支障あり				4
	日常生活、レクリエーションに著明な支障あり				0
連続最大歩行可能距離 ²					
	600m以上				5
	400m以上600m未満				4
	100m以上400m未満				2
	100m未満				0
路面の状況					
	どの路面でも問題なし				5
	凸凹道, 階段, 斜面でやや困難				3
	凸凹道, 階段, 斜面はかなり困難, またはできない				0
歩容異常					
	なし, またはあってもわずか				8
	あきらかな異常はあるが歩行は可能				4
	著明な異常があり歩行が困難				0
矢状面可動域 (他動的背屈 + 底屈の総計) ³					
	正常, あるいは軽度の制限 (30° 以上)				8
	中等度の制限 (15° 以上30° 未満)				4
	著明な制限 (15° 未満)				0
後足部可動域 (他動的内がえし + 外がえしの総計) ⁴					
	正常, あるいは軽度の制限 (健側の75% 以上)				6
	中等度の制限 (健側の25% 以上75% 未満)				3
	著明な制限 (健側の25% 未満)				0
足関節と後足部の安定性 (前方引き出しあるいは内外反ストレスによる不安定性の有無) ⁵					
	安定				8
	不安定				0

アライメント (10点)

/ 10

良	蹠行性足 ⁶ , 変形なし	10
可 ⁷	蹠行性足, 軽度 ~ 中等度の変形	5
不可 ⁷	非蹠行性足, 高度の変形	0

計 / 100

脚注

- 1 あてはまる項目のうち最も低い点数で選ぶ
- 2 連続して休まずに歩行できる最大限の距離
- 3 基本軸を胫骨, 移動軸を足底面とし, 膝関節屈曲位で計測する
- 4 基本軸を下腿への垂直線, 移動軸を足底面とし, 膝関節屈曲位で計測する
- 5 前方引き出しあるいは内外反ストレスでのエンドポイントで, 抵抗感がある場合は「安定」, ない場合を「不安定」, とする
- 6 「蹠行性足」とは, 歩行時に足底接地が可能な足のことをいう
- 7 徒手的に矯正が可能な場合は「可」, 不可能な場合は「不可」, とする

日本足の外科学会 中足部判定基準 (JSSF midfoot scale)

疼痛 (40点) ¹

/ 40

	自発痛・運動時痛	日常生活時	スポーツ・重労働時	(参考: 疼痛対策の有無)	
なし	全くなし	なし	なし	(なし)	40
軽度	時々運動時痛あり	なし	あり	(なし)	30
中等度	常に運動時痛あり	全ての動作時にあり	かなりあり	(時々必要)	20
高度	常に自発痛あり	かろうじて歩行できる	(痛みで)できない	(常に必要)	0

機能 (45点)

/ 45

活動の制限					
	すべての活動に支障なし				10
	日常生活には支障はないが、レクリエーション程度の活動に支障あり				7
	日常生活、レクリエーションに支障あり				4
	日常生活、レクリエーションに著明な支障あり				0
靴 ²					
	通常の市販靴が履ける				5
	ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする				3
	整形靴や装具を必要とする				0
連続最大歩行可能距離 ³					
	600m以上				10
	400m以上600m未満				7
	100m以上400m未満				4
	100m未満				0
路面の状況					
	どの路面でも問題なし				10
	凸凹道, 階段, 斜面でやや困難				5
	凸凹道, 階段, 斜面はかなり困難, またはできない				0
歩容異常					
	なし, またはあってもわずか				10
	あきらかな異常はあるが歩行は可能				5
	著明な異常があり, 歩行が困難				0

アライメント (15点)

/ 15

良	蹠行性足 ⁴ , 変形なし	15
可 ⁵	蹠行性足, 軽度～中等度の変形	8
不可 ⁵	非蹠行性足, 高度の変形	0

計 / 100

脚注

- 1 あてはまる項目のうち最も低い点数で選ぶ
- 2 どの靴も問題なく履ける場合は「通常の市販靴が履ける」、市販の靴でも可能だが選択が限られ足底挿板等を用いる場合は「ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする」、市販の靴は不可能で採型した靴しか履けないあるいは装具を必要とする場合は「整形靴や装具を必要とする」、とする
- 3 連続して休まずに歩行できる最大限の距離
- 4 「蹠行性足」とは、歩行時に足底接地が可能な足のことをいう
- 5 徒手的に矯正が可能な場合は「可」、不可能な場合は「不可」、とする

日本足の外科学会 母趾判定基準
(JSSF hallux metatarsophalangeal-interphalangeal scale , JSSF hallux scale)

疼痛 (40点) ¹

/ 40

	自発痛・運動時痛	日常生活時	スポーツ・重労働時 (参考: 疼痛対策の有無)	
なし	全くなし	なし	なし	(なし) 40
軽度	時々運動時痛あり	なし	あり	(なし) 30
中等度	常に運動時痛あり	全ての動作時にあり	かなりあり	(時々必要) 20
高度	常に自発痛あり	かろうじて歩行できる	(痛みで)できない	(常に必要) 0

機能 (45点)

/ 45

活動の制限

すべての活動に支障なし	10
日常生活には支障はないが、レクリエーション程度の活動に支障あり	7
日常生活、レクリエーションに支障あり	4
日常生活、レクリエーションに著明な支障あり	0

靴 ²

通常の市販靴が履ける	10
ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする	5
整形靴や装具を必要とする	0

MTP関節可動域(他動的伸展+屈曲の総計) ³

正常,あるいは軽度の制限 (75°以上)	10
中等度の制限 (30°以上75°未満)	5
著明な制限 (30°未満)	0

IP関節可動域(他動的屈曲) ⁴

制限なし	5
高度の制限 (10°以下)	0

MTP-IP安定性(各方向を含む)

安定	5
不安定 ⁵	0

胼胝, 鶏眼 ⁶

胼胝,あるいは鶏眼はないか,あっても無症状	5
有痛性胼胝,あるいは鶏眼あり	0

アライメント (15点)

/ 15

良 変形なし	15
可 ⁷ 軽度~中等度の変形	8
不可 ⁷ 高度の変形	0

計 / 100

脚注

- 1 あてはまる項目のうち最も低い点数で選ぶ
- 2 どの靴も問題なく履ける場合は「通常の市販靴が履ける」、市販の靴でも可能だが選択が限られ足底挿板等を用いる場合は「ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする」、市販の靴は不可能で採型した靴しか履けないあるいは装具を必要とする場合は「整形靴や装具を必要とする」、とする
- 3 基本軸を第1中足骨,移動軸を第1基節骨とする
- 4 基本軸を第1基節骨,移動軸を第1末節骨とする
- 5 易脱臼性を含める
- 6 有痛性が否かで判定する。母趾のみではなく,足底すべての胼胝,鶏眼を対象とする
- 7 徒手的に矯正が可能な場合は「可」,不可能な場合は「不可」,とする

日本足の外科学会 2～5趾判定基準
(JSSF lesser metatarsophalangeal-interphalangeal scale, JSSF lesser scale)

疼痛 (40点) ¹

/ 40

	自発痛・運動時痛	日常生活時	スポーツ・重労働時 (参考: 疼痛対策の有無)	
なし	全くなし	なし	なし	(なし) 40
軽度	時々運動時痛あり	なし	あり	(なし) 30
中等度	常に運動時痛あり	全ての動作時にあり	かなりあり	(時々必要) 20
高度	常に自発痛あり	かろうじて歩行できる	(痛みで)できない	(常に必要) 0

機能 (45点)

/ 45

活動の制限		
すべての活動に支障なし		10
日常生活には支障はないが、レクリエーション程度の活動に支障あり		7
日常生活、レクリエーションに支障あり		4
日常生活、レクリエーションに著明な支障あり		0
靴 ²		
通常の市販靴が履ける		10
ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする		5
整形靴や装具を必要とする		0
MTP関節可動域(他動的伸展+屈曲の総計) ³		
正常,あるいは軽度の制限 (75°以上)		10
中等度の制限 (30°以上75°未満)		5
著明な制限 (30°未満)		0
IP関節可動域(他動的屈曲) ⁴		
制限なし		5
高度の制限 (10°以下)		0
MTP-IP安定性(各方向を含む)		
安定		5
不安定 ⁵		0
胼胝, 鶏眼 ⁶		
胼胝, あるいは鶏眼はないか, あっても無症状		5
有痛性胼胝, あるいは鶏眼あり		0

アライメント (15点)

/ 15

良	変形なし	15
可 ⁷	軽度～中等度の変形	8
不可 ⁷	高度の変形	0

計 / 100

脚注

- 1 あてはまる項目のうち最も低い点数で選ぶ
- 2 どの靴も問題なく履ける場合は「通常の市販靴が履ける」、市販の靴でも可能だが選択が限られ足底挿板等を用いる場合は「ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする」、市販の靴は不可能で採型した靴しか履けないあるいは装具を必要とする場合は「整形靴や装具を必要とする」、とする
- 3 基本軸を第2～5中足骨, 移動軸を第2～5基節骨とする
- 4 基本軸を第2～5基節骨, 移動軸を第2～5中節骨とする
- 5 易脱臼性を含める
- 6 有痛性か否かで判定する。足底すべての胼胝, 鶏眼を対象とする
- 7 徒手的に矯正が可能な場合は「可」、不可能な場合は「不可」、とする

日本足の外科学会 RA足部・足関節判定基準 (JSSF RA foot ankle scale)

疼痛 (30点) ¹

/ 30

疼痛なし,あるいは軽度	30
歩行時の持続的な痛み	20
疼痛のため歩行できない	10
常に強い疼痛がある	0

変形 (25点)

/ 25

	前足部 ²			中足部	後足部 ³
	母趾	2~5趾			
変形なし	5	5	5	5	10
わずかな変形	3	3	3	3	5
明らかな変形	1	1	1	1	3
著しい変形	0	0	0	0	0

可動域 (15点)

/ 15

	前足部 (MTP/IP関節) ⁴		後足部 ⁵	
正常	(75°以上 / 11°以上)	5	(60°以上)	10
正常の可動域の1/2以上	(30~74° / 5~11°)	3	(30~59°)	5
正常の可動域の1/2未満	(30°未満 / 5°未満)	0	(30°未満)	0

歩行能力 (20点)

/ 20

全く支障なし	20
屋外歩行は可能であるが,家の周囲の散歩程度	10
屋内歩行は可能であるが,屋外歩行は不能	5
歩行不能	0

日常生活動作 ⁶ (10点)

/ 10

	容易	困難	不能
階段昇降	2	1	0
正座	2	1	0
つま先立ち	2	1	0
通常の靴がはける	2	1	0
和式トイレ	2	1	0

計 / 100

脚注

- 1 歩行開始時から持続的な疼痛はあるが歩行を続けられる場合を「歩行時の持続的な痛み」、運動時痛が高度で歩行できないが安静時痛はない場合を「疼痛のため歩行できない」、常に強い安静時痛がある場合を「常に強い疼痛がある」とする
- 2 MTP関節のわずかな突出またはIP関節が徒手的に矯正可能な場合を「わずかな変形」、MTP関節の著明な突出またはIP関節が徒手的に矯正不能な場合を「明らかな変形」、母趾が第2趾と重なるかまたはIP関節の胼胝や潰瘍を伴い徒手的に矯正不能な場合を「著しい変形」とする
- 3 生理的な踵外反のみを「変形なし」、生理的踵外反が消失あるいはわずかに増強した場合を「わずかな変形」、足底全面が接地しているが明らかな踵内・外反を呈する場合を「明らかな変形」、足底の内側あるいは外側が床につかない場合を「著しい変形」とする
- 4 母趾,2~5趾の中で最も制限されている趾で評価する。MTP関節可動域は他動的伸展+屈曲の総計,IP関節可動域は他動的屈曲のみとする
- 5 底背屈,内・外がえしで最も制限されている運動で評価する。矢状面可動域は他動的背屈+底屈の総計,後足部可動域は他動的内がえし+外がえしの総計とする
- 6 日常生活動作の判定基準

	容易	困難	不能
階段昇降	両足を交互に昇降できる	一歩ずつそろえてなら可能	自力では不可能
正座	足背すべてを接地させることが可能	足背が浮く	正座肢位をとれない
つま先立ち	片脚で容易につま先立ちを5秒以上可能	片脚でのつま先立ちはできないが,両側同時ならば5秒以上可能	両足でも全くつま先立ちができない
通常の靴がはける	スタイリッシュな靴が履ける	靴が変形する	市販の靴は履けず,整形靴のみの場合
和式トイレ	膝を完全屈曲し,踵が浮かない場合	膝を完全屈曲ししゃがみ込めるが,踵が浮く場合	全くしゃがみ込む姿勢がとれない場合